

確認テスト 1

氏名

氏名

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

① おほつかなきもの 十二年の山ごもりの法師の女親^{めおや}。知らぬところに、闇^{やみ}なるに行きたるに、「^②あらはにもぞある」とて、火もともさで、^③さすがに並み^④ぬたる。

^⑤今出で来たる者の心も知らぬに、^⑥やんごとなき物持たせて人のもとにやりたるに、おそく帰る。物もいまだいはぬちこの、そりくつがへり、人にもいだかれず泣きたる。

〔枕草子〕第六七段より

1 線①・②・③・⑥の語句の意味を書け。

①	[]	②	[]
---	---	---	---	---	---

③	[]	⑥	[]
---	---	---	---	---	---

2 線②・④を現代仮名遣いで書け。

②	[]	④	[]
---	---	---	---	---	---

3 線⑤「今出で来たる者の心も知らぬに」の意味として最も適當なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 初対面の人と出くわしたのに
- イ 新しく来たばかりの気心も知れない奉公人に
- ウ まもなく出てくるであろうと心待ちにしているのに
- エ すぐにでも来てほしいという思いも知らずに

()

- 1 15点×4
- 2 10点×2
- 3 20点×1

得点
100

確認テスト 2

氏名

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

新中納言、使者を立てて「能登殿、^①いたう罪な作りたまひそ。さりとしてよき敵^{かたぎ}か。」と^②のたまひければ、「さては大将軍にくめぐさんなれ。」とて心得て、源氏の船に乗り移り、乗り移り、をめき叫んで攻め戦ふ。判官の船に^③乗りあつて、あはやと目をかけて^④飛んでかかるに、判官かなはじとや^⑤思はれけん、味方の船の二丈ばかり退いたりけるに、ゆらりと飛び乗りたまひぬ。

〔平家物語より抜粋・改稿〕

1 線①・③・④は音便を含む部分である。もとの形に直し、音便の種類を答えよ。

① もとの形…

音便の種類…

③ もとの形…

音便の種類…

④ もとの形…

音便の種類…

2 線②「のたまひ」は、文法上次のどれにあたるか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 八行下二段活用・連用形

イ 八行下二段活用・未然形

ウ 八行四段活用・終止形

エ 八行四段活用・連用形

3 線⑤「思はれけん」の意味を、簡潔に書け。

- 1 10点×6
- 2 20点×1
- 3 20点×1

得点
100

確認テスト 4

氏名

氏名

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

家居いえみのつきづきしく、あらまほしき^①こそ、仮の宿りとは思へど、興あるものなれ。よき人の、のどやかに住みなしたる所は、さし入りたる月^②の色も、ひときはしみじみと見ゆるぞ^③かし。今めかしくきらかならね^④ど、木だちものふりて、わざとならぬ庭の草^⑤も心あるさまに、簀子^{すのこ}・透垣すいがいのたよりをかしく、うちある調度も昔覚えてやすらかなるこそ、心にくしと見^⑥。

〔徒然草〕第一〇段より

1 — 線①「こそ」は係助詞である。結びの語は何か、抜き出して記せ。

--

2 — 線②～⑤の助詞の種類として適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えよ。

ア	格助詞	イ	接続助詞	ウ	副助詞
エ	係助詞	オ	終助詞	カ	間投助詞

② () ③ () ④ () ⑤ ()

3

--

にあてはまる語として適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア ゆ イ ゆる ウ ゆれ () ()

- 1 20点×1
- 2 15点×4
- 3 20点×1

得点
100

確認テスト 5

氏名

氏名

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

わらは病に^①わづらひたまひて、よろづにまじなひ・加持^{かぢ}など参らせたまへど、しるしなくて、あまたたび起こり^②たまひければ、ある人、「北山になむ、なにがし寺といふ所に、かしこき行ひ人はべる。こぞの夏も世におこりて、人々まじなひわづらひしを、やがてとどむるたぐひあまたはべりき。ししこらかしつる時はうたてはべるを、とくこそ試みさせたまはめ。」など^③聞こゆれば、召しにつかはしたるに、「老いかがりて、室の外にもまかです。」と^④申したれば、「いかがはせむ。いと忍びてものせん。」と、^⑤宣ひて、御供にむつまじき^{よたりいづり}四五人ばかりしてまだ暁におはす。

〔源氏物語〕若紫より。

1 線①「わづらひたまひて」を、敬語を踏まえて口語訳せよ。

〔

2 線②～④は、だれからだれに対する敬語か。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 作者
 - イ 光源氏
 - ウ ある人
 - エ 行ひ人（北山の聖）
 - オ 光源氏の使者
- ② () から () に対する敬語
- ③ () から () に対する敬語
- ④ () から () に対する敬語

3 線⑤「宣ひて」について、意味を書き、敬語の種類を次から選び、記号で答えよ。

- ア 尊敬語
- イ 謙讓語
- ウ 丁寧語

意味：〔

敬語の種類：() ()

- 1 20点×1
- 2 20点×3
- 3 10点×2

得点
/ 100

確認テスト 6

氏名

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

横川の恵心僧都の妹、安養の尼上のもとに、強盗入りて、あるほどの物の具、みな取りていでければ、尼上は紙衾かみぶすまといふものばかり引き着てゐられたりけるに、姉なる尼のもとに、小尼上とてありけるが、走り参りて見れば、小袖を一つ落おとしたりけるを取りて、「これ落として侍るなり。奉れ。」とて持て来たりければ、それを取りて後は、我が物とこそ思おもひつらめ。主の心ゆかぬものをば、いかに着るべき。いまだ遠くはよも行かじ。とくとく持ておはして、取らせ給へとありければ、門戸のかたへ走り出でて、「やや。」と呼よび返して、「これを落とされにけり。確かに奉らん。」と言ひければ、盗人ども立ち止まりて、しばし案じたる気色にて、「悪しく参りけり。」とて、取とりたる物ども、さながら返し置きて、帰りにけり。

(二十訓抄)より。

1 文中に安養の尼上の会話文がある。その部分の初めと終わりの五字を抜き出して書け。

初め……

終わり……

2 線①～④の主語を答えよ。

①

②

③

④

3 線⑤「取りたる物ども、さながら返し置きて、帰りにけり」を口語訳せよ。

- 1 20点×1
- 2 15点×4
- 3 20点×1

得	点
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; position: relative;"> / </div>	
100	

確認テスト 7

氏名

--

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

むかし、をとこありけり。そのをとこ、身を^①えうなき物に思ひなして、京にはあらし、あづまの方に住むべき国求めにとて行きにけり。もとより友とする人ひとりふたりしていきけり。道知れる人もなくて、まどひ行きけり。三河の国、八橋といふところにいたりぬ。そこを八橋といひけるは、水ゆく川の蜘蛛手なれば、橋を八つわたせるによりてなむ八橋といひける。その沢のほとりの木の蔭に下りゐて、乾飯食ひけり。その沢にかきつばたいと^②おもしろく咲きたり。それを見て、ある人のいはく、「かきつばたといふ五文字を句の上にするて、旅の心をよめ」といひければ、よめる。

から衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ

とよめりければ、皆人、乾飯のうへに涙をおとしてほとびにけり。

〔伊勢物語〕第九段より。

1 線①「えうなき」を、現代仮名遣いで書け。

[]

2 線②「おもしろく」の意味を書け。

[]

3 文章中の和歌について、(1)枕詞を抜き出し、(2)それがかかる言葉を終止形に直して、漢字で書け。

(1) []

(2) []

4 文章中の和歌に用いられている掛詞について説明した次の文の () A・B に当てはまる言葉を書き、それぞれ現代語で書け。

上の句の中の「なれにしま」の「なれ」には、「着ふるす」という意味の「なる(萎る)」と「(A)」という意味の「なる」が、「つま」には、着物の裾の両側を意味する「つま(褌)」と「(B)」がかけられている。

A []

B []

- 1 10点×1
- 2 10点×1
- 3 20点×2
- 4 20点×2

得点
100

確認テスト 8

氏名

--

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

おとこもすなる日記といふものを、女もしてみんとてするなり。その年の①十二月の二十日あまり一日の日の戌の時に、門出す。その由、いささかに物にかきつく。あるひと、県の四年五年果てて、例の事どもみなしをへて、解由などとりて、住む館よりいでて、舟に乗るべき所へわたる。かれこれ知る知らぬ、送りす。としごろよくくらべつる人々なむ、別れがたく思ひて、日しきりにとかくしつづ、ののしるうちに夜ふけぬ。廿二日に、和泉の国までと、平らかに願立つ。藤原のときさね、舟路なれど、馬のはなむけす。上、中、下、酔ひあきて、いとあやしく、潮海のほとりにて、あざれあへり。

〔土佐日記〕冒頭より

1 線①「十二月」を当時の言い方に直して、漢字で書け。

[]

2 線②「戌の時」は、いまの時間にして次のどれに当たるか。次から選び記号で答えよ。

()

- ア 午前四時ごろ イ 午前八時ごろ ウ 午後四時ごろ エ 午後八時ごろ

3 線③「和泉の国」は、現在のどこに当たるか。都道府県名を書け。

[]

4 線④「馬のはなむけ」とは、どのようなことか。次から選び記号で答えよ。

- ア 旅立つ人を送るための送別の宴
 イ 一年を無事に終えられることに感謝する行事
 ウ 海路の安全を願うために神仏への祈願
 エ 白い馬を見て邪気を払うための儀式

()

- 1 20点×1
 2 30点×1
 3 20点×1
 4 30点×1

得点
100

確認テスト 9

氏名

--

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

天徳の御歌合の時、兼盛・忠見、ともに御隨身にて、左右についてけり。①初恋といふ題を給はりて、忠見、名歌よみ出したりと思ひて、兼盛もいかでこれほどの歌よむべきとぞ思ひける。

恋すてふ我が名はまだきたちにけり人知れずこそ思ひそめし②か

さて、すでに御前にて講じ、判ぜられけるに、兼盛が歌に、

つめども色に出でにけり我が恋はものや思ふと人のとふまで

判者ども、名歌なりければ判じ煩ひて、天氣をうかがひけるに、御門、忠見が歌をば、両三度御詠ありけり。兼盛が歌をば、多反御詠ありける時、天氣左にありとて兼盛勝ちにけり。忠見心うく覚えて、心ふさがりて、不食の病つきてけり。たのみなきよしを聞きて、兼盛訪ひければ、「別の病にあらず。御歌合の時、名歌よみ出して覚え侍りしに、殿の『ものや思ふと人のとふまで』に、あはやと思ひて、あさましく覚えしより、胸ふさがりて、かく思ひ侍りぬ」と、④つひに身まかりにけり。執心こそよしなけれども、道を執する習ひあはれにこそ。共に名歌にて、拾遺に入りて侍るにや。

〔沙石集〕巻五より。

1 線①「給はりて」とあるが、だれがだれから給わたったのか。文章中の言葉を用いて書け。

[]

2 線②「しか」について、(1)その活用形と、(2)終止形を書け。

活用形…… [] 終止形…… []

3 線③「あさましく覚えし」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 恨めしいと思った
- イ にくらしいと感じた
- ウ 驚きあきれた
- エ 胸をわくわくさせた

4 線④「つひに身まかりにけり」の原因を説明せよ。

[]

- 1 30点×1
- 2 15点×2
- 3 10点×1
- 4 30点×1

得点
100

確認テスト 10

氏名

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

(平家に対する謀反の罪によって九州のさらに南の喜界が島に流罪となっていた俊寛僧都・少将成常・康頼入道のもとに、赦免状を持った都からの使者が到着した。しかし、赦免されたのは成常と康頼の二人だけであった。)

既に船出だすべしとてひしめきあへば、僧都 乗ッてはおりつ、おりては乗ッつ、^② あらまし事をぞし給ひける。少将の形見には、よるの衾、康頼入道が形見には、一部の法花経をぞとどめける。ともづなとておし出だせば、僧都綱に取りつき、腰になり、脇になり、たけの立つまではひかれて出で、たけも及ばずなりければ、舟に取りつき、さていかにのおの、俊寛をば遂に捨てはて給ふか。是程とこそおもはざり 。日ごろの情も今は何にならず。ただ理をまげて乗せ給へ。せめては九国の地までとくどかれけれども、都の御使、「いかにもかなひ候まじ。」とて、取りつき給へる手を引きのけて、舟をばつひに漕ぎ出だす。僧都せん方なきに、渚にাগり臥し、をさなき者の、乳母や母などを慕ふやうに足摺をして、「これ乗せてゆけ、具してゆけ」と、をめきさけべども、漕ぎ行く舟の習にて、跡は白浪ばかりなり。

(「平家物語」足摺より。)

1 線①「乗ッて」は音便の形である。もとの形に直し、音便の種類を書け。

もとの形…… [] 音便の種類…… []

2 線②「あらまし事」とは、具体的には何か。次から選び記号で答えよ。

- ア 船に乗ったり下りたりしていること。
- イ 少将と康頼から形見の品を受け取ること。
- ウ 綱に取りついて引かれていくこと。
- エ 足摺をして泣きさけぶこと。

3 文章中の に入る、完了の助動詞「つ」を活用させた形を書け。

4 文中に俊寛の会話文がある。その部分の初めと終わりの五字を抜き出して書け。

初め…… …… 終わり……

- 1 20点×2
- 2 20点×1
- 3 20点×1
- 4 20点×1

得点
100

確認テスト 1

氏名

氏名

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

① おぼつかなきもの 十二年の山ごもりの法師の女親^{めおや}。知らぬところに、闇^{やみ}なるに行きたるに、「^②あらはにもぞある」とて、火もともさで、^③さすがに並み^④ぬたる。

^⑤今出で来たる者の心も知らぬに、^⑥やんごとなき物持たせて人のもとにやりたるに、おそく帰る。物もいまだいはぬちこの、そりくつがへり、人にもいだかれず泣きたる。

〔枕草子〕第六七段より

1 線①・②・③・⑥の語句の意味を書け。

- | | | | | | | | |
|---|---|---------|---|---|---|----------|---|
| ① | 〔 | 気がかりなもの | 〕 | ② | 〔 | まる見えだ | 〕 |
| ③ | 〔 | それでも | 〕 | ⑥ | 〔 | 大切な(貴重な) | 〕 |

2 線②・④を現代仮名遣いで書け。

- | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|---|---|-----|---|
| ② | 〔 | あらわ | 〕 | ④ | 〔 | いたる | 〕 |
|---|---|-----|---|---|---|-----|---|

3 線⑤「今出で来たる者の心も知らぬに」の意味として最も適當なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 初対面の人と出くわしたのに
- イ 新しく来たばかりの気心も知れない奉公人に
- ウ まもなく出てくるであろうと心待ちにしているのに
- エ すぐにでも来てほしいという思いも知らずに

(イ)

- 1 15点×4
- 2 10点×2
- 3 20点×1

得点
100

確認テスト 3

氏名

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

今は昔、受領すりやうの郎等ちやうとうして、人に猛たけく見え□□^①と思ひて、えも言はずいはず兵つはものだてける者ありけり。暁あけに家を出でて、ものへ行か□□^②としけるに、夫はいまだ臥ふしたりけるに、妻め起きて食物じきもちの事などせむとするに、有明ありあけの月の、板間いたまより屋のうちにさし入りたりけるに、月の光を、妻の、おのが影かげのうつりたりけるを見て、「髪かみおぼとれたる大きな童盗人わらはぬすびとの、もの取ら□□^③とて、入り□□^④にけるぞ」と思ひ^⑤ければ、あはて迷ひて、夫の臥したるもとに逃げ行きて、夫の耳みみにさしあてて、ひそかに、「かしこに大きな童盗人の髪おぼとれたるがもの取ら□□^⑥とて入りて立てるぞ」といひければ、夫、「それをばいかがせむとする。いみじきことかな」といひて、枕上まくらがみに長刀ながたちを置きたるをさぐり取りて、……

〔今昔物語集〕卷二八・四二より

1 線①～⑥の助動詞の文法上の意味を次から選び、記号で答えよ。(同じ記号を、何度使ってもよこ。)

- ア 意志 イ 推量 ウ 断定 エ 過去 オ 受身 カ 完了 キ 打消
- ① (**キ**) ② (**エ**) ③ (**カ**) ④ (**カ**)
- ⑤ (**エ**) ⑥ (**カ**)

2 □□に共通してあてはまる助動詞と、その意味を書け。

助動詞…… **む** 意味…… **意志**

3 線部「髪おぼとれたる大きな童盗人」とは、実際には何であったか。文章中の言葉を使って書け。

月の光によって映った妻の影

- 1 10点×6
2 10点×2
3 20点×1

得点
100

確認テスト 5

氏名

氏名

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

わらは病に^①わづらひたまひて、よろづにまじなひ・加持^{かぢ}など参らせたまへど、しるしなくて、あまたたび起^②こりたまひければ、ある人、「北山になむ、なにがし寺といふ所に、かしこき行ひ人はべる。こぞの夏も世におこりて、人々まじなひわづらひしを、やがてとどむるたぐひあまたはべりき。ししこらかしつる時はうたてはべるを、とくこそ試みさせたまはめ。」など^③聞こゆれば、召しにつかはしたるに、「老いかがりて、室の外^{むろ}にもまかです。」と^④申したれば、「いかがはせむ。いと忍びてものせん。」と、^⑤宣^{のたま}ひて、御供にむつまじき^{よたりいづり}四五人ばかりしてまだ暁におはす。

〔源氏物語〕若紫より。

1 線①「わづらひたまひて」を、敬語を踏まえて口語訳せよ。

お悩みになって

2 線②～④は、だれからだれに対する敬語か。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 作者 イ 光源氏 ウ ある人 エ 行ひ人（北山の聖） オ 光源氏の使者
- ② () から () **イ** () に対する敬語
- ③ () **ウ** () から () **イ** () に対する敬語
- ④ () **エ** () から () **オ** () に対する敬語

3 線⑤「宣ひて」について、意味を書き、敬語の種類を次から選び、記号で答えよ。

- ア 尊敬語 イ 謙讓語 ウ 丁寧語

意味…

おっしゃって

敬語の種類…

() **ア** ()

- 1 20点×1
- 2 20点×3
- 3 10点×2

得点
100

確認テスト 6

氏名

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

横川の恵心僧都の妹、安養の尼上のもとに、強盗入りて、あるほどの物の具、みな取りでいでければ、尼上は紙衾かみぶすまといふものばかり引き着てゐられたりけるに、姉なる尼のもとに、小尼上とてありけるが、走り参りて見れば、小袖を一つ落おとしたりけるを取りて、「これ落として侍るなり。奉れ。」とて持て来たりければ、それを取りて後は、我が物とこそ思おもひつらめ。主の心ゆかぬものをば、いかを着るべき。いまだ遠くはよも行かじ。とくとく持ておはして、取らせ給へとありければ、門戸のかたへ走り出でて、「やや。」と呼び返して、「これを落とされにけり。確かに奉らん。」と言ひければ、盗人ども立ち止まりて、しばし案じたる気色にて、「悪しく参りけり。」とて、取りたる物ども、さながら返し置きて、帰りにけり。

(二十訓抄)より。

1 文中に安養の尼上の会話文がある。その部分の初めと終わりの五字を抜き出して書け。

初め……

それを取り

終わり……

取らせ給え

2 線①～④の主語を答えよ。

①

強盗

②

小尼上

③

強盗

④

小尼上

3 線⑤「取りたる物ども、さながら返し置きて、帰りにけり」を口語訳せよ。

盗ったいろいろな品物を、そのまま返し置いて、帰ってしまった

- 1 20点×1
- 2 15点×4
- 3 20点×1

得点
100

確認テスト 7

氏名

--

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

むかし、をとこありけり。そのをとこ、身を^①えうなき物に思ひなして、京にはあらし、あづまの方に住むべき国求めにとて行きにけり。もとより友とする人ひとりふたりしていきけり。道知れる人もなくて、まどひ行きけり。三河の国、八橋といふところにいたりぬ。そこを八橋といひけるは、水ゆく川の蜘蛛手なれば、橋を八つわたせるによりてなむ八橋といひける。その沢のほとりの木の蔭に下りゐて、乾飯食ひけり。その沢にかきつばたいと^②おもしろく咲きたり。それを見て、ある人のいはく、「かきつばたといふ五文字を句の上にするて、旅の心をよめ」といひければ、よめる。

から衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ

とよめりければ、皆人、乾飯のうへに涙をおとしてほとびにけり。

〔伊勢物語〕第九段より。

1 線①「えうなき」を、現代仮名遣いで書け。

[ようなき]

2 線②「おもしろく」の意味を書け。

[すばらしく(美しく・趣がある)]

3 文章中の和歌について、(1)枕詞を抜き出し、(2)それがかかる言葉を終止形に直して、漢字で書け。

(1) [から衣] (2) [着る]

4 文章中の和歌に用いられている掛詞について説明した次の文の () A・Bに当てはまる言葉を書き、それぞれ現代語で書け。

上の句の中の「なれにしま」の「なれ」には、「着ふるす」という意味の「なる(萎る)」と「(A)」という意味の「なる」が、「つま」には、着物の裾の両側を意味する「つま(褌)」と「(B)」がかけられている。

A [慣れ親しむ] B [妻]

- 1 10点×1
- 2 10点×1
- 3 20点×2
- 4 20点×2

得点
100

確認テスト 9

氏名

--

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

天徳の御歌合の時、兼盛・忠見、ともに御隨身にて、左右についてけり。①初恋といふ題を給はりて、忠見、名歌よみ出したりと思ひて、兼盛もいかでこれほどの歌よむべきとぞ思ひける。

恋すてふ我が名はまだきたちにけり人知れずこそ思ひそめし②しか

さて、すでに御前にて講じ、判ぜられけるに、兼盛が歌に、

つめども色に出でにけり我が恋はものや思ふと人のとふまで

判者ども、名歌なりければ判じ煩ひて、天氣をうかがひけるに、御門、忠見が歌をば、両三度御詠ありけり。兼盛が歌をば、多反御詠ありける時、天氣左にありとて兼盛勝ちにけり。忠見心うく覚えて、心ふさがりて、不食の病つきてけり。たのみなきよしを聞きて、兼盛訪ひければ、「別の病にあらず。御歌合の時、名歌よみ出して覚え侍りしに、殿の『ものや思ふと人のとふまで』に、あはやと思ひて、あさましく覚えしより、胸ふさがりて、かく思ひ侍りぬ」と、④つひに身まかりにけり。執心こそよしなけれども、道を執する習ひあはれにこそ。共に名歌にて、拾遺に入りて侍るにや。

〔「沙石集」巻五より。〕

1 線①「給はりて」とあるが、だれがだれから給わたったのか。文章中の言葉を用いて書け。

兼盛と忠見が御門から給わたった。

2 線②「しか」について、(1)その活用形と、(2)終止形を書け。

活用形……

已然形

終止形……

き

3 線③「あさましく覚えし」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 恨めしいと思った
- イ にくらしいと感じた
- ウ 驚きあきれた
- エ 胸をわくわくさせた

4 線④「つひに身まかりにけり」の原因を説明せよ。

歌合で負けたことで気落ちして、胸がふさがり、食べものも喉を通らなくなってしまったから。

- 1 30点×1
- 2 15点×2
- 3 10点×1
- 4 30点×1

得点	
100	

確認テスト 10

氏名

--

演習

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

(平家に対する謀反の罪によって九州のさらに南の喜界が島に流罪となっていた俊寛僧都・少将成常・康頼入道のもとに、赦免状を持った都からの使者が到着した。しかし、赦免されたのは成常と康頼の二人だけであった。)

既に船出だすべしとてひしめきあへば、僧都 乗ッてはおりつ、おりては乗ッつ、^② あらまし事をぞし給ひける。少将の形見には、よるの衾、康頼入道が形見には、一部の法花経をぞとどめける。ともづなとておし出だせば、僧都綱に取りつき、腰になり、脇になり、たけの立つまではひかれて出で、たけも及ばずなりければ、舟に取りつき、さていかにのおの、俊寛をば遂に捨てはて給ふか。是程とこそおもはざり 。日ごろの情も今は何にならず。ただ理をまげて乗せ給へ。せめては九国の地までとくどかれけれども、都の御使、「いかにもかなひ候まじ。」とて、取りつき給へる手を引きのけて、舟をばつひに漕ぎ出だす。僧都せん方なきに、渚にাগり臥し、をさなき者の、乳母や母なんどを慕ふやうに足摺をして、「これ乗せてゆけ、具してゆけ」と、をめきさけべども、漕ぎ行く舟の習にて、跡は白浪ばかりなり。

(「平家物語」足摺より。)

1 線①「乗ッて」は音便の形である。もとの形に直し、音便の種類を書け。

もとの形…… 音便の種類……

2 線②「あらまし事」とは、具体的には何か。次から選び記号で答えよ。

- ア 船に乗ったり下りたりしていること。
- イ 少将と康頼から形見の品を受け取ること。
- ウ 綱に取りついて引かれていくこと。
- エ 足摺をして泣きさけぶこと。

() ア ()

3 文章中の に入る、完了の助動詞「つ」を活用させた形を書け。

つれ

4 文中に俊寛の会話文がある。その部分の初めと終わりの五字を抜き出して書け。

初め…… さていかに 終わり…… 国の地まで

- 1 20点×2
- 2 20点×1
- 3 20点×1
- 4 20点×1

得点
100